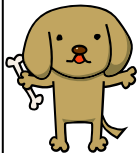


## ～夏に気をつけたいこと、ご存知ですか！？～

夏といえばやはり暑さです。そんな夏に一番注意したいのは**熱中症**ですが、「さくら通信～第1号」に詳しく掲載されているので、そちらを御覧下さい。そこで今回は、熱中症の他に夏に注意したいことについてご紹介します。



- 1. 皮膚病**: 夏は、菌や虫たちが元気になる季節です。毎日のブラッシングはもちろんのこと、マメに水で洗ってあげること、しっかり乾かしてあげてを忘れないでください！なお、裏面で川上先生が夏場の皮膚疾患について紹介していますので、そちらも参考にしてください。
- 2. ノミ・ダニ**: 寄生されてしまうと、アレルギーや咬傷により皮膚炎を引き起こしてしまいます。また、動物がかゆくなるだけでなく家の中で繁殖し、家族の方にも被害は及びます。夏から秋が最も活発に活動するため、これからの予防・駆除がとても重要です！駆除剤は数種類あり、効果も様々です。飼育環境に適した薬を正しい間隔で使用して、かゆくない夏を！



- 3. 夏のフード**: 暑さ、湿気でフードは変質してしまい、下痢・嘔吐などの原因になります。夏の間だけでもいつもより小さい袋を選び、冷暗所または冷蔵庫など、乾燥した涼しい場所を選んで保管するようにしてください。 獣医師 佐々木

### 犬種別のコーナー：ダックスフント

胴長短足が特徴のダックスフントは、アナグマやウサギ持りの狩猟犬としてドイツで作られました。日本では家庭犬として可愛がられていますが、ヨーロッパでは現在も狩猟犬として活躍しています。性格は明るく人懐っこく、獲物を追って単独で巣穴に入っていく仕事を任されていたので独立心、自立心の強い子が多く見られます。



サイズはスタンダード、ミニチュア、カニンヘンの3種類、毛質もスムーズ、ロング、ワイヤーがありさらにカラーバリエーションは豊富で、日本のドッグショー用としては現在46色ほどが認められています。今後増えるものと思われています。特徴的な体型から椎間板ヘルニアを起こし易く、ひどくなると半身不随や排泄機能が損なわれる事もあります。その他にもアレルギー性皮膚炎、外耳炎、遺伝性の病気で進行性網膜萎縮症などがあります。 動物看護師 山崎

### 院長のコラム：「がん」について④

「がん」はどうやって診断するの？

体に見つけた「しこり」をがんと診断し、そのがんが体の中でどの位暴れているかを把握するためには様々な検査が必要となります。

まず大切なのが十分に話を聞くことです。しこりを発見したのはいつか、動物は気にしているのか、大きくなるのか、苦痛感があるのか等、現在に至るまでの経過をお聞きします。次にしこりに細い針を刺して細胞の検査（細胞診）を行います。これで分かることは、しこりが腫瘍かそうでないのか、腫瘍であれば良性なのか悪性（がん）なのかということです。そしてがんが疑われたら、そのがんの名前と悪性度をはっきりさせるために、三次元的に評価するため病理組織検査を行います。 院長

# さくら通信

第5号 夏号！

平成21年 8月発行

発行者 小泉・内藤

さくら動物病院

新聞編集委員

### お知らせコーナー

携帯サイトでもさくら動物病院にアクセスしていただけるようになりました！！詳しくは……



<http://www.sakura-komoro.jp/>

ホームページ

[http://www.sakura-komoro.jp](http://www.sakura-komoro.jp/)

# パピーパーティーについて

当病院では、6ヶ月齢までの子犬たちを中心に、パピーパーティーというものを、月に3回開いています。パピーパーティーには、AクラスとBクラスというものがあります。今回は、そのパピーパーティーについてお話したいと思います。

## パピーパーティーの様子



### 【Aクラス】

主にオーナーさんとわんちゃんとのコミュニケーション（関わり方）のお話をしていきます。  
第2日曜日開催。

#### ＜内容＞

- ・T-タッチ
- ・名前を好きにする方法
- ・おもちゃの選び方
- ・抱っこの仕方
- ・爪きり、肛門腺 など

### 【Bクラス】

毎回内容が変わります。他のわんちゃんと接し、自由に遊べる時間を作っています。  
第1、3日曜日開催。

#### ＜内容＞

- ・歯みがき、爪きり
- ・ブラッシング
- ・フセ、バーン
- ・クレートトレーニング
- ・遊び など

動物看護師 黒崎

## 犬猫の皮膚病

はじめとした梅雨も明け、いよいよ本格的な夏の到来です。この時期はとも楽しい反面、動物たちにとってはつらい時期でもあるのです。その中でも熱中症などはよく知られていますが、今回は、夏場に比較的多い皮膚病に関する基本的な知識をご紹介します。

### ＜ノミアレレルギー性皮膚炎＞

☆背部皮膚、特に腰背部中心の強いかゆみを伴います。特に今の時期ノミ、マダニの寄生はものすごく多いので、定期的に駆除剤による予防を心がけましょう。

### ＜疥癬（かいせん）＞

☆全身性の強いかゆみ（特に耳まわり、ひざ、腹部、ひじ）が発生します。同居犬や人もかゆみが見られます。

☆普段から、定期的なシャンプー（薬浴）、特に長毛種は短めにカットしたりして予防しましょう。

### ＜膿皮症＞

☆皮膚に細菌が増えることにより起こります。アレルギーなどの他の皮膚病に併発することも多く、中にはひどい炎症を起こしかゆみを伴う場合もあります。

☆抗菌性シャンプーを使って予防し、基礎疾患がある場合はその治療を優先して行いましょう。


これらは皮膚病のほんの一部で、まだまだ多くの病気があります。これらの病気は夏の暑さによる蒸れで、さらに悪化してしまいがちです。しかし、定期的なシャンプー、カット、ブラッシングによって防げるものも多くあります。少し被毛を水で濡らし、扇風機などで換気してあげるのもいいでしょう。熱中症予防にも効果的です！

獣医師 川上


## 訪問活動



当院では2007年から病院の動物たちと老人保健施設へ訪問しています。小諸の「こまくさ」さんには月に1回、佐久の「安寿苑」さんには年2回伺っています。動物達が落ち着いていられるか（特に六花は）いつもハラハラしながら出かけるのですが、訪問先では歓迎して頂き、帰る時には「またきてね」と言って頂けるので、次も頑張るぞ！と思えます。訪問活動の様子はホームページに掲載してあるのでどうぞご覧下さい。

ちなみに麦造君（当院の猫）は毎回季節感のある「かぶりもの」で出掛けます。先月はスイカ  でした。8月はカミナリさまかな～

動物看護師 小林

2月の鬼とおなじだぞ 

## 編集後記

わが家に新しい家族（名前は「くるみ」）がふえてもうすぐ3ヶ月が過ぎようとしています。体調を崩して病院に連れてこられた子猫で、まだ眼も開いていない状態（生後十日程）でしたが、里親として引き取ることにしました。家に来てからも便秘だったり、下痢をしたりと調子の悪い時期もありましたが、今は元気にすくすくと成長しています。猫を飼うのは今回が初めてで、飼って初めて見えてくるものが数多くありました。実際に経験することの大切さを改めて感じ、ここで得たものが日々の診療の役に立っています。

最後に、発行1周年を迎えることができましたことを皆様にご挨拶いたします。今後もさまざまな情報を分かりやすく提供していきたいと思っております。のよろしくお願ひします。

獣医師 内藤